慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	企業グループの戦略的経営管理 - ルースカップリングとイノベーション -
Sub Title	
Author	桝本栄(Masumoto, Sakae) 石田英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第434号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0434

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0434

学生氏名　桝本　栄
（株式会社ダイエー）
所属ゼミナール　奥村博昭研

主査　石田英夫
副査　奥村昭博
和田充夫

企業グループの戦略的経営管理
—ルースカップリングとイノベーション—

本研究は、激変の中、企業グループと言われる企業の経営管理はいかにあるべきかを探求するものである。

まず質と量の変化を併せ持つ激変の環境下では、企業グループが有利であることが説明される。この企業グループの経営管理の焦点は各単位組織である子会社の分化と統合の問題である。きめの細かい、しかも素早い環境への対応は強い分化によって可能となる。より分化の強いこと、単位組織の自律性の保持が成果につながることが、第2章の理論、第3章の実証分析（重回帰分析、平均値の差の検定）により明らかとなった。さらに、強い分化が今後の企業の課題であるイノベーションをもたらすことが平均値の差の検定で明らかになった。さらには、こうしたルースな統合は戦略タイプの違いを越えて必要であることも実証分析で明らかとなった。強い分化には、この遠心力に見合うだけの求心力、統合を必要とする。統合がグループ戦略の実施を可能にし、グループのシナジーを実現させるのである。しかし、タイトな統合は分化を阻害する。子会社の自律性を保持したままの統合が求められるのである。このルースな統合は「見えざる資産」を介した統合であり、これの中心は「人」である。又企業グループの戦略的経営管理とは、グループ戦略をもとに戦略自由度を持つ各子会社が自らの戦略を持つことで、この為にも統合はルースなものでなければならないという結論が導かれた。